

SSKW



巣立ちだより

No.62

新年を迎えて

巣立ち会理事長 田尾有樹子

昨年の正月に比べて、今年はお天気にも恵まれ、また、うちの利用者も緊急で駆けつけるようなこともなく、実に穏やかな正月だったような気がする。

しかし、昨年から抱えているいくつかの案件は私に「これは嵐の前の静けさ」と耳打ちしている。世界情勢は決してよくない。この70年近い私の人生の中でも最悪かもしれない。ウクライナ戦争は続いているし、そこに北朝鮮までが参加している。ガザやイスラエルの中東の問題も私はプーチンが陰で誰かをたきつけたのではと勘ぐっている。アメリカではトランプが2期目の大統領になる。習近平のかたくなさも相変わらずである。あまりにも見たくない現実が溢れている。以前にも書いたがウクライナ戦争が起こった時、あの2022年2月24日からしばらく私は抑うつ状態だった。あり得ないことが起こったということは今後もあり得ないと思うことが私の人生で起きる可能性があるということである。全く認められなかったが逆に今後は何でもありだということである。

開戦後に凶面を引いていた今建設中のMUGENには防空壕がある。ウクライナ戦争の映像で、あんなにも個人の住宅に地下室があるということに仰天した。地下室は建設費が高い。それなのに、個人の住宅であれだけ地下室があるということはこうした事態を予測していたということなのか。

東京都とMUGENの設計に関する相談をした時、この地下室を災害時の避難場所として認可してほしいと頼んだが、あえなく却下した。地下室は水に弱いからだそうだ。しかしこの東京に、もはや空襲がないと誰が自信を持って言えよう。備えあれば憂いなし。今回、私は迷わず、地下室を作った。

そんな憂いを抱えながらの年明けである。しかも、昨年は行政との戦いが多かった。利用者の給付を通して、その行政の障害者福祉に関する考え方が見えてくる。障害福祉サービスは基本市区町村行政の考え方で決まることが多い。利用者のためにきちんと主張する、他の行政と比べて、いかに非常識なことをしているか伝える、これも福祉サービス事業所の役割と私は認識してい

新年を迎えて

る。なので、行政との戦いは日常なのだが、去年は相手が東京都だった。正直、許認可の仕事が東京都福祉財団に降りた時、本庁の障害者施策推進部はもう少し、本質的なよい福祉サービスとは何か、そこへの視点を持ち、そうした指導をする役割を担ってくれると勝手に期待した。勝手にした期待が裏切られたからと言って、相手のせいとは言えないかもしれない。そもそも巢立ち会は行政がやるべき

と10年以上思っていたが、いくら待っても精神障害者が地域生活していけるような仕組みを作ってくれない。それに業を煮やして始めたものであった。その時、他人や他の組織に期待することは止めようと思ったはずであった。

初心に帰って、自分たちの出来ることを今年も粛々とし続けようと思う。たとえ世界がもっと悪くならうが、私たちの目の前から利用者が消えることはない。

(田尾)

原藤卓郎先生 白寿のお祝い会

原藤先生は、巢立ち会の立ち上げに協力され、現在も評議員をされています。原藤先生が白寿を迎えて今までのお礼と感謝を形にしようと、「お祝い会」を理事長田尾が中心に企画が始まりました。巢立ち会職員だけでなく60年以上吉祥寺病院の医師、院長として長く勤めておられた吉祥寺病院の関係者にも声をかけ準備が始まりました。

巢立ち会は1922年(平成4年)に、現理事長田尾が吉祥寺病院の家族会と職員に呼びかけて発足しました。少し長くなりますが、原藤先生も関わってきた巢立ち会の歴史を述べます。当時、統合失調症は精神分裂病と呼ばれ、精神病者と言われていた人々がやっと障害者と認識され始めたころの時代です。日本は1990年代でも精神障害者の制度としての地域支援がほぼない時代であり先進国から大きく遅

れていました。残念ながら今でも滝山病院事件が発生したように、精神障害をめぐる人権状況は問題がありすぎる日本です。

巢立ち会発足前には吉祥寺病院のケースワーカーであった田尾が、退院などで当事者の住むアパートを探して不動産屋に足を運んでは追い返されるばかりの日々でした。地域生活に定着させようと苦闘していた時に、東京都が精神障害者のグループホームの補助金を開始しました。すぐにグループホームを始めようと巢立ち会を組織化して、いわゆる任意団体と言われる市民団体として1992年発足しました。巢立ち会の命名は多くの当事者が住んでいた大家さんです。巢立ち会は開所当時から精神科病院を退院しても居場所と支援がない、入院が不必要に長くなっている社会的入院者を一人でも多く病

原藤卓郎先生 白寿のお祝い会

院を離れられるように、退院促進を積極的に実践して支えるために活動をしてきました。現在は若者から高齢者まで支援を拡げ、社会福祉法人取得や施設建設など事業は大きくなりましたが、今でも設立時の理念が息づいています。

さて、会場は9月15日の神田の学士会館です。今は在職していない人にも連絡すると、さすが原藤先生の今までの人となり功績を表すように多くの懐かしい顔が集まってきました。巣立ち会関係者と吉祥寺病院関係者が集まり、原藤先生の奥様とお子さん、お孫さんの御一家も招待して総勢60名でお祝いする会が始まりました。

晴れの会にふさわしく良く晴れた日となり、善男善女が華々しくドレスアップして集まり、始まる前から賑やかな声が



バイオリン演奏される原藤先生

会場にいっぱいになりました。豪華な会場と食事が出迎えて久しぶりの交友を楽しむ温かい時間となり、式典が始まると進行も巣立ち会職員の知恵が発揮されていました。原藤先生への、参加者から長年の感謝を、御家族からもこの会を開いてくれたことのお礼を述べられました。笑いとホロっとする場面が続き、また原藤先生の歩んだ人生の年月の写真も披露され、参加者の感慨深い思いが会場に溢れました。そして原藤先生のお礼の辞と、先生の長年の趣味であるバイオリンの名演奏も披露されました。

改めて原藤先生に感謝し、集まってくれた方にお礼をいたしますとともに、今後も巣立ち会の活動への関心を持っていただきこれからの健康をお祈りいたします。（松岡）



田尾理事長より目録の贈呈

ピアサポート事業「カミングアウトジャーニー」上映会を終えて

2024年11月1日の夜、三鷹市精神障がい者地域自立支援事業（ピアサポート事業）講演会として、ドキュメンタリー映画「カミングアウトジャーニー」上映会&講演会を開催しました。

「カミングアウトジャーニー」は、俳優であり演出家であり、高齢者や若者の支援の仕事に携わる福正大輔さんが、ご自身のセクシュアリティやご病気のことについて、大切な人たちに伝えていく旅を記録したドキュメンタリー映画です。

最近の世の中は、オンラインで自分を発信するということが盛んに行われる反面、等身大の自分を伝えることがとても難しくなっているように感じます。微かなサインの見落としも許さない繊細なコミュニケーションがなされる一方で、口に出すのも憚られるようなきつい言葉がネット上で拡散されます。テクノロジーのおかげで直接誰かと接触しなくても暮らしていけるようになる中で、他者と出会うことはますます「リスク」であり「コスト」になっています。

「カミングアウトジャーニー」は、それでも他者とより深く出会うことへの希望を感じる映画でした。映画の中で福正さんは、今回カミングアウトしたのは「もっと関係を深めたい人」だと語っています。誰かと深く知り合うことは、当然ながら、傷つけ合うリスクとともに、より豊かな関係性につながっていく可能性をもっています。映画でカミングアウトされた人々は、さまざま



福正大輔さん

まな反応を示しつつ最終的にはそれを受け入れ（この映画の大きな見どころです）、それまでとは少し違った、おそらくはより深い関係性へと進んでいきます。

私たちはたまたま、ゲイでもHIV陽性でも薬物依存症でもないかも（あるかも）しれません。しかし、何かしら別の生きづらさやマイノリティ性を背負って生きていたりします。カミングアウトは、自分のことを大切な誰かにきちんと伝えたいと思うことであり、その意味で誰にとっても他人事ではありません。この映画は、どうしたら人が人の中で十分に自分自身を生きていけるかという普遍的な問いを投げかけているように私は感じました。

トークも心に残る言葉の多い充実したもので、アンケートでは非常に熱のこもった感想をいただきました。企画した私としては、今回の上映会のあとで、参加した何人かの方から直接「いいイベントだった」という感想をいただいたことが何より嬉しかったです。（植田）

MUGEN 建設中です

「巢立ちだより」でも時折触れておりました、日中サービス支援型のグループホーム「MUGEN」の竣工が2月末といよいよ迫ってまいりました。

事業開始は4月1日になる予定ですので皆様もうしばらくお待ちください。

今号では建設中の「MUGEN」内部をご紹介します。

皆様のご期待に沿った建物がきっと目の前に現れることをお約束致します。

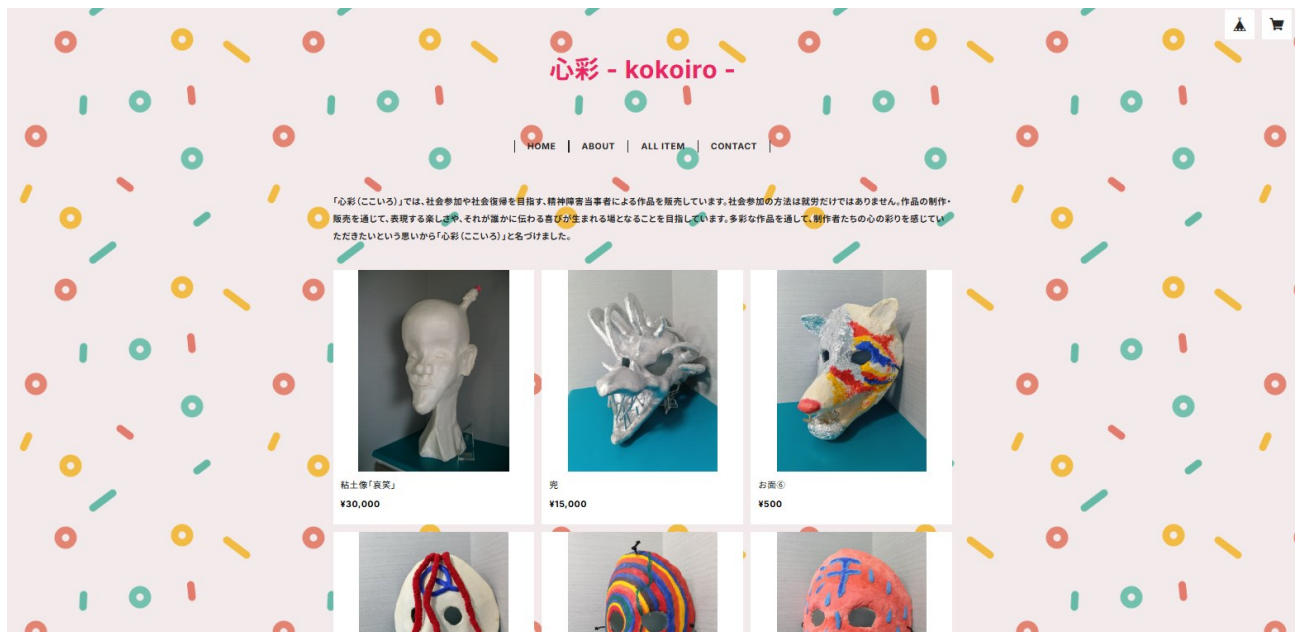
どうぞご想像を膨らませながら楽しみにしててください。



「心彩」のことなど

思春期の青少年の支援をしているなかで、15年前に比べて驚くほど漫画やイラストなどを描く人が増えているという実感がある。いくら好きであってもそれを仕事にすることは難しいが、趣味や興味の部分も活かしつつ生活を組み立てていけないものか…。本業の仕事をしながらも、創作したものを皆に知ってもらい、

何かしらの対価を得るという形で。『人生、ここにあり!』というイタリア映画を観た時に、色んなでこぼこがある人たちが補い合って生きる姿に魅せられた。「そんなことはできない」と決めつける必要はない。誰かが何かを作り、また別の誰かがそれを売る。夢は口にすれば実現すると信じている。（田尾）



巣立ち会やその周辺で会う方たちはとても個性的で、言葉にするものや描くもの、そしてその表現方法に惹き込まれることがあります。普段はほとんど口を開かず表情も乏しい方が、色鮮やかな絵を描かれていた時は大変驚きました。環境の変化に適応するのが苦手で、支援担当者の変更によって落ち着かない状態になっていた方が、創作活動に入るとそれに没頭しつつ、とても楽しそうに作品の説明をしてくれたりもします。言葉にはない力を、芸術は持っていると感じます。巣立ち会の活動を通して出会った造形作品にぜひ日の目を見させてあげたい。そ

の作品が別の誰かの大切なものになったらすてきだなと思います。

WAM（福祉医療機構）の助成を受け、田尾の思いが「心彩（ここいろ）」というオンラインショップの立ち上げにつながりました。「心彩」という名前は、多彩な作品を通して制作者たちの心の彩りを感じていただきたいという思いが背景にあります。色々な場所に眠っているはずの作品たちを掘り起こして、色鮮やかなショップにしていけたらと考えています。ゆくゆくは作品管理の部分も利用者の皆さんが担えるような形を目指して土台作りに励んでいます。（水野）

新しい出会いを クリスマスパティー 2024



毎年恒例となったクリスマスパーティーを12月1日に実施し、69名の方に参加いただきました。これまでは、「恋人づくり」や「パートナー探し」をテーマに企画をしてきましたが、過去の参加者の皆様のご意見も踏まえ、まずは「友だちづくり」や「繋がりづくり」が目的の方にも参加いただけるような雰囲気づくりに努めました。また、ジェンダーの視点に配慮し、性的マイノリティの方が参加しやすい場となるように意識をしました。その他、スタッフを各グループに配置したり、ゲーム選びや会場レイアウトを工夫したりすることを通し、参加者間のコミュニケーションが円滑に進むようにサポートをしました。

実際のプログラムは、グループに分かれたゲームとフリータイムの二本立てで行いました。前半のグループで行うゲームでは、メンバー同士のことを知るきっかけ作りとして、「質問ゲーム」と「意思疎通ゲーム」を行いました。後半のフリータイムでは、目当ての人と自由に話

す人がいたり、特設ブースで引き続きグループでのゲームを楽しむ人がいたり、参加者それぞれが思い思いに時間を過ごしました。

アンケート結果のうち、「無理にパートナーをではなく、友をとるのが良かった」、「なかなかこういう機会がないので良かった」、「とても良く構成されていて楽しめた」などのご意見からは、ねらい通りの場を設けられたと感じました。他方、「もっと盛り上げて欲しい」、「浮いてしまった」、「もう少しいろいろな人と話せるきっかけ作りをしてほしい」、「楽しくない」、「声かけが苦手な人は取り残される」、「話す時間がなかった」などの声もいただき、皆さんが楽しんでいただける場を作り上げる難しさも痛感しました。来年はもっと工夫をして、さらに多くの方が充実した時間を過ごしてお帰り頂けるようにしたいと今から張り切っています。

参加して下さった皆さま、運営・企画などの面でご協力いただいた皆さま、どうもありがとうございました！（水野）

巣立ち会 賛助会からのお知らせ

【令和6年度分として 順不同】

渡部譲様、森川あかね様、柏木彰様、株式会社ウィズユー ウィズユー訪問看護ステーション様、大坪節子様、佐藤弘章様、村瀬信子様、姫本昭夫様、桜井錠治様、山崎秀子様、会田孝太郎様、村田眞男様、村田眞様、馬部裕之様、梨木信彦様、菅野俊美様、濱田眞雄様、田村博様、楠原彰様、谷部淑子様、飯野和典様、青木鉄次様、熊井秀哲様、小沢洋一様、岡崎秀昭様、山田昭徳様、伊東暁子様、鈴木裕美子様、堀紙管株式会社 堀秀太様、角谷徳道様、村上建一様、太田秀夫様、塚本優子様、瀬戸口和久様、井上征治様、井上廣子様、高坂正男様、河田博様、阿部康代様、有限会社多摩たんぽぽ介護サービスセンター 千葉信子様、吉野京子様、渡辺浩二様、宮地秀樹様、株式会社円グループ 寺田悦子様、江戸川啓司様、小林靖宜様、江戸川啓志様、山田千代様、大谷さかゑ様、高田美智子様

〈令和6年6月27日から令和6年12月27日到着分〉

たくさんの方々から、会費や寄付をいただいております。ご支援ありがとうございます。

巣立ち会の活動にご協力をお願いします。

賛助会費

- 年会費 一口 3,000円
- 郵便振替 口座番号 00140-4-542860
- 加入者名 巣立ち会 賛助会

巣立ち会 賛助会 会長 松岡恒夫

編集後記

巣立ち会では月に1回「事業推進会議」という名の会議を開催しています。この巣立ちだよりの掲載記事もここで決定されています。おおよそ巣立ち会のイベントなどの企画はだいたいここで検討され実行されます。さて、MUGENの事業がいよいよ始まります。現場職員は皆、期待と不安、といった思いです。「夢幻泡影」ゆめ、まぼろしの如く、朧やかな空気の流れる場所であり地域に開かれた穏やかな場所であること、そんな思いを今は抱いて待っています。（山本）

発行所 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷102
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
定価 50円
編集 社会福祉法人巣立ち会
〒181-0014 東京都三鷹市野崎2-6-42
電話 0422-34-2761
E-mail: sudachi-kaze@sudachi-kai.or.jp
http://sudachi-kai.or.jp/